

令和6年度

全国学力・学習状況調査 川崎市報告書
—児童生徒の学習・生活の状況について—

令和6年8月

川崎市総合教育センター

令和6年度全国学力・学習状況調査 川崎市報告書

－ 児童生徒の学習・生活の状況について －

1 概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の実施状況 ※調査の種類により調査人数は若干変動

小学校 114校 第6学年 11,596名 中学校 52校 特別支援学校 1校（中学部） 第3学年 9,042名

(3) 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査 小学校調査 - 国語・算数 中学校調査 - 国語・数学

教科に関する調査は、次の（ア）と（イ）を一体的に出題している。

（ア）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

（イ）知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

イ 質問調査 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査

（本年度の主な調査項目）

基本的な生活習慣等、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等、ICTを活用した学習状況、主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導改善に関する取組状況等、総合的な学習の時間、特別活動、学習に対する興味・関心や授業の理解度等

ウ 学校に対する質問調査 学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査

エ 調査実施日 令和6年4月18日（木）

(4) 教科に関する調査結果の概要

ア 教科に関する調査の平均正答数（問）と平均正答率（％）

	小学校調査			
	国語(14問)		算数(16問)	
	正答数(問)	正答率(%)	正答数(問)	正答率(%)
川崎市	9.6	69.0	10.7	67.0
全国	9.5	67.7	10.1	63.4

	中学校調査			
	国語(15問)		数学(16問)	
	正答数(問)	正答率(%)	正答数(問)	正答率(%)
川崎市	9.0	60.0	8.9	56.0
全国	8.7	58.1	8.4	52.5

※川崎市、全国の値は、公立学校の調査結果となっている。

※文部科学省の公表と同様に、政令指定都市の平均正答率は整数値で表している。

イ 本市の傾向

上記アのいずれの項目の平均正答率も全国の数値を上回っている。

2 教科に関する調査

「教科に関する調査」の校種、教科ごとの概要は以下に示すとおりである。

全体の傾向については、領域、設問ごとに川崎市の正答率と全国とを比較して、「△」「▼」印を付けている。

(△ 上回った主な設問 ▼ 下回った主な設問 5ポイント以上の差に下線)

結果の概要については、内容・領域等ごとに個々の設問について特徴的なものを取り上げて、「◇」「◆」印を付けている。

(◇ 比較的できている点 ◆ 課題があると考えられる点)

(1) 小学校 国語

ア 調査問題の内容

学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題している。なお、小学校第5学年までの内容となるようにしている。

(例)・オンラインで交流する場面における話し方の工夫として適切なものを選択する。

- ・学校のよさを紹介する文章の空欄に入る内容を取材メモを基にして書く。
- ・物語の一文の中の「かがやいてます」の主語として適切なものを選択する。
- ・物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く。

イ 全体の傾向

(ア) 学習指導要領の内容ごとの正答率と全国との比較

平均正答率は、〔思考力、判断力、表現力等〕の「話すこと・聞くこと」では60.6%、「書くこと」では68.3%、「読むこと」では71.8%、〔知識及び技能〕の「言葉の特徴や使い方に関する事項」では65.4%、「情報の扱い方に関する事項」では88.2%、「我が国の言語文化に関する事項」では77.5%である。「話すこと・聞くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」において全国を上回った。「書くこと」においては全国を下回った。

(イ) 設問ごとの傾向

平均正答率は全14問中11問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上ある設問はない。

ウ 学習指導要領の内容ごとの結果の概要

(ア) 言葉の特徴や使い方に関する事項

◇ 1 二(1) 話し言葉と書き言葉との違いに気付くことはできている。(79.3%、+3.4)

(イ) 情報の扱い方に関する事項

◇ 2 一(2) 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことはできている。
(88.2%、+1.3)

(ウ) 我が国の言語文化に関する事項

◇ 3 四 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くことはできている。
(77.5%、+2.9)

(エ) 話すこと・聞くこと

◆ 1 二(2) 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題がある。(53.2%、+0.3)

(オ) 書くこと

◇ 2 一(1) 目的や意図に応じて集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることはできている。
(81.6%、+1.3)

◆ 2 二 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。(54.9%、-1.7)

(カ) 読むこと

◇ 3 二(2) 人物像を具体的に想像することはできている。(73.1%、+0.6)

エ 授業改善に向けて

(ア) 言葉の特徴や使い方に関する事項

「文の中における主語と述語との関係を捉える指導の充実」

主語と述語との関係について、低学年から繰り返し指導することが大切である。また、〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」や「B書くこと」の指導事項などに関連を図り、日常的に主語が何かを意識して文章を読んだり書いたりすることが重要である。

(イ) 話すこと・聞くこと

「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する指導の充実」

音声言語だけでは聞き手が理解しにくかったり、誤解を招きそうだったりする場合などに、資料を使いながら話すことや聞き手の興味・関心や情報量などを予想し、どのような資料を用意すればよいかを考える場面を設定することが大切である。

実際に話す場面では、聞き手の状況に応じた表現を工夫できるようにすることが大切である。実際にやりとりをする前に、やりとりのモデルなどを活用して気を付けるとよいことを確認することも考えられる。

(ウ) 書くこと

「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する指導の充実」事実を客観的に書くとともに、その事実と感想や意見との関係を十分捉えて書くことが重要である。伝えたいことを明確にし、客観的な事実を取り上げることで考えをより深めていくことができるようにすることが大切である。また、内容に注目して、文章全体に一貫性があるかを確かめたり、文末表現に注目して、事実と考えを適切に区別しているか、事実と考えを混同して書いていないかを確かめたりする場面を設定することも大切である。

(エ) 読むこと

「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする指導の充実」

登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付け、それらを基に性格や考え方などを総合して判断できるようにすることが大切である。また、「何が書かれているか」という内容面だけでなく、「どのように描かれているか」という表現面にも着目して読むことが、物語の全体像を具体的に想像するために重要である。

(2) 中学校 国語

ア 調査問題の内容

学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題している。なお、中学校第2学年までの内容となるようにしている。

(例)・文章中の情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する。

- ・話合いの話題や発言を踏まえ、これからどのように本を選びたいかについて自分の考えを書く。
- ・説明的な文章を読み、本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する。
- ・表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する。

イ 全体の傾向

(ア) 学習指導要領の内容ごとの正答率と全国との比較

平均正答率は、〔思考力、判断力、表現力等〕の「話すこと・聞くこと」では60.7%、「書くこと」では66.8%、「読むこと」では49.0%、〔知識及び技能〕の「言葉の特徴や使い方に関する事項」では61.6%、「情報の扱い方に関する事項」では61.7%、「我が国の言語文化に関する事項」では75.8%である。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の全ての内容において全国を上回った。

(イ) 設問ごとの傾向

平均正答率は全15問中12問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下のとおりである。

△3二 物語の下書きについて、文の中の語句の位置を直した意図を説明したものとして適切なものを選択する。
(59.4%、+5.6)

ウ 学習指導要領の内容ごとの結果の概要

(ア) 言葉の特徴や使い方に関する事項

- ◆3二 文の成分の順序や照応について理解することに課題がある。(59.4%、+5.6)
- ◆4一 表現の技法について理解することに課題がある。(58.3%、+3.4)

(イ) 情報の扱い方に関する事項

- ◆1三 意見と根拠など情報と情報との関係について理解することに課題がある。(45.7%、+1.7)

(ウ) 我が国の言語文化に関する事項

◇ 4 三 行書の特徴を理解することはできている。(75.8%、+0.2)

(エ) 話すこと・聞くこと

◆ 1 四 話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることに課題がある。
(46.5%、+1.8)

(オ) 書くこと

◇ 3 一 目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることはできている。(82.6%、+1.2)

◆ 3 四 表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することに課題がある。
(51.1%、+1.8)

(カ) 読むこと

◆ 2 一 文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することに課題がある。(38.0%、+1.7)

◆ 2 四 目的に応じて必要な情報に着目して要約することに課題がある。(45.3%、+2.7)

エ 授業改善に向けて

(ア) 言葉の特徴や使い方に関する事項

a 「文の成分の順序や照応について理解し、活用できるようにする指導の充実」

文の成分の順序や照応などの文の構成について理解したことを、文章を書いたり、書いた文章を推敲したりする場面で活用できるようにすることが大切である。そのためには、生徒が書いた文などを用いて、語順や照応によって伝わり方がどのように変わるかを確かめた上で、自分が伝えたいことに合わせて文を整えるなど、知識と活用場面が結び付くように指導することが効果的である。

b 「表現の技法について理解し、活用できるようにする指導の充実」

表現の技法について理解したことを、文章を読んだり、自分の考えを伝えたりする場面で活用できるようにすることが大切である。そのためには、表現が工夫されている文章や詩歌などを取り上げ、用いられている表現の技法に着目し、その名称などを確かめた上で、その効果について考えたり自分の表現に生かしたりするなど、知識と活用場面が結び付くように指導することが効果的である。

(イ) 情報の扱い方に関する事項

「情報と情報との関係を理解し、話や文章の中で捉えることができるようにする指導の充実」

原因と結果、意見と根拠、具体と抽象などの基本的な情報と情報との関係について理解し、実際の話や文章の内容を理解したり精査したりする際に、その関係を捉えることができるようにすることが大切である。そのためには、話合いの中での発言などを取り上げ、どの部分が意見でどの部分が根拠なのかを確かめたり、根拠が意見を支えるものになっているかを確かめたりするなど、文脈の中で具体的に捉えることができるように指導することが効果的である。

(ウ) 話すこと・聞くこと

「話題や展開を捉えながら話し合い、発言を結び付けて考えをまとめる指導の充実」

話合いを通して、考えを広げたり深めたりするには、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることが大切である。そのためには、話合いの目的や話題を意識し、話合いがどのような段階にあるのかを捉えながら話したり聞いたりできるよう指導することが大切である。自分が経験したことを基に建設的な話し合い方について考えたり、実際の話合いを通して自分が考えたことを基に話合いを振り返ったりすることで、話合いの過程に注目できるようにすることが効果的である。

(エ) 書くこと

「自分の考えが伝わる文章になるように、効果を考えて描写を工夫して書く指導の充実」

自分の考えがよく伝わる文章を書くには、表現の効果を考えて描写するなど、工夫して書くことが大切である。そのためには、用いる語句や表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えながら書き進めたり伝えたいことが読み手に伝わるかを確かめて推敲したりすることができるように指導することが大切である。書いた文章を読み合って、書き手の意図と読み手の受け止め方がかみ合っているかを確かめるなど、読み手の立場に立って考えることができるようにすることが効果的である。

(オ) 読むこと

「目的に応じて必要な情報に着目して要約する指導の充実」

文章を読んで内容を理解したり、理解したことを伝えたりするには、目的に応じて必要な情報に着目して要約することが必要である。概略を理解するために文章全体の内容を短くまとめたり、情報を他者に伝えるために必要な部分を取り出してまとめたりするなど、その目的や必要に応じて、内容や分量、方法が異なるということを理解し、適切に要約することができるように指導することが大切である。要約した文章を読み合い、目的に沿っているかを検討したり、必要な情報を適切に取り上げることができているかを確かめたりすることが効果的である。

(3) 小学校 算数

ア 調査問題の内容

学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題している。なお、小学校第5学年までの内容となるようにしている。

(例)・問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ。

- ・円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ。
- ・家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く。
- ・折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く。

イ 全体の傾向

(ア) 学習指導要領の内容ごとの正答率と全国との比較

領域ごとの平均正答率は、「数と計算」では69.5%、「図形」では68.8%、「変化と関係」では58.8%、「データの活用」では65.0%である。全ての領域において全国を上回った。

(イ) 設問ごとの傾向

平均正答率は全16問中14問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下のとおりである。

△3(2) 円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ。(76.4%、+5.1)

△3(3) 直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く。(43.1%、+6.6)

△4(2) 3分間で180m歩くことを基に、1800mを歩くのにかかる時間を書く。(76.6%、+6.6)

△4(3) 家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く。(37.6%、+6.6)

△4(4) 家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く。(62.2%、+8.1)

△5(4) 示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く。(55.3%、+6.0)

ウ 学習指導要領の内容ごとの結果の概要

(ア) 数と計算

◇1(2) 数量の関係を、□を用いた式に表すことはできている。(91.3%、+2.8)

◆2(1) 計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述することに課題がある。(59.2%、+2.3)

(イ) 図形

◇ 3 (1) 直方体の見取図について理解し、描くことはできている。(85.3%、 -0.2)

◆ 3 (3) 球の直径の長さ と 立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことに課題がある。
(43.1%、 $+6.6$)

(ウ) 変化と関係

◆ 4 (3) 道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。(37.6%、 $+6.6$)

(エ) データの活用

◇ 5 (1) 円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることはできている。(83.4%、 $+2.6$)

◆ 5 (3) 折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述することに課題がある。(47.2%、 $+3.2$)

◆ 5 (4) 示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断することに課題がある。(55.3%、 $+6.0$)

エ 授業改善に向けて

(ア) 数と計算

a 「問題場面を図に表し、数量の関係を捉え、式に表すことができるようにする指導の充実」

問題を読み、「多いから加法」、「少ないから減法」、のように言葉による演算決定をするのではなく、問題場面を場面絵や図に表し、その図等と問題文のそれぞれの数量の関係を比較し、捉えることができるようにすることが大切である。また、図等を基にして、式に表すことができるようにすることも大切である。

b 「計算に関して成り立つ性質を活用して、計算を工夫できるようにする指導の充実」

計算に関して成り立つ性質を活用して、計算を工夫することで能率的に処理できる場合があることに気付き、計算できるようにすることが重要である。さらに、答えの求め方について、図等を用いて筋道を立てて説明できるようにすることも大切である。

(イ) 図形

「図形を構成する要素を見出し、それらを活用して体積を求めることができるようにする指導の充実」

身の回りの形から図形を捉え、図形を構成する要素に着目して一辺の長さ等を見出し、体積の求め方を 1 cm^3 の積み木などの半具体物や図等で理解するとともに体積を求めるために、必要な情報を判断できるようにすることが重要である。

(ウ) 変化と関係

a 「二つの数量の関係に着目し、場面に応じて「速さ」の比べ方を考察することができるようにする指導の充実」

場面や目的に応じて、1 時間や 1 分間といった単位時間あたりに移動する長さや、一定の長さを移動するのにかかる時間として速さを捉え、複数のコースの進む道のりとかかった時間の関係を「速さ」で比較ができるようにすることが重要である。

b 「二つの数量の関係に着目し、「速さ」など単位量あたりの大きさの意味及び表し方について理解することができるようにする指導の充実」

道のりと時間が比例関係にあることに着目して、「速さ」など単位量あたりの大きさの意味及び表し方について理解できるようにすることが重要である。

(エ) データの活用

a 「グラフを読み取り、見出したことを表現できるようにする指導の充実」

日常生活の場面のデータをグラフに表し、そのグラフから特徴や傾向を捉え、見出したことを表現できるようにすることが重要である。その際、グラフのどの部分に着目し、必要な情報を読み取ったかという根拠を明らかにしながら表現できるようにすることが大切である。

b 「問題を解決する過程やその結果を式に表すことができるようにする指導の充実」

日常生活の問題を解決するために、必要な数値を用いて処理したり、その結果を式に表したりして問題解決までの過程やその結果を式に表現できるようにすることが重要である。

(4) 中学校 数学

ア 調査問題の内容

学習指導要領における、「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題している。なお、中学校第2学年までの内容となるようにしている。

(例)・ n を整数とするとき、連続する二つの偶数を、それぞれ n を用いた式で表す。

- ・正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、□に入る整数の和が○に入れた整数の和の2倍になることを説明する。
- ・点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $AQ = PB$ であることを、三角形の合同を基にして証明する。
- ・18Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する。
- ・車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する。

イ 全体の傾向

(ア) 学習指導要領の内容ごとの正答率と全国との比較

領域ごとの平均正答率は、「数と式」では57.1%、「図形」では43.4%、「関数」では63.1%、「データの活用」では56.6%である。全ての領域において全国を上回った。

(イ) 設問ごとの傾向

平均正答率は全16問中15問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下のとおりである。

△1 n を整数とするとき、連続する二つの偶数を、それぞれ n を用いた式で表す。(47.7%、+12.9)

△6(2) 正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、□に入る整数の和が○に入れた整数の和の2倍になることを説明する。(47.2%、+11.3)

△9(1) 点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $AQ = PB$ であることを、三角形の合同を基にして証明する。(31.8%、+6.0)

ウ 学習指導要領の内容ごとの結果の概要

(ア) 数と計算

◇6(1) 問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算をすることはできている。
(90.8%、+0.6)

◆1 連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことに課題がある。(47.7%、+12.9)

- ◆ 2 等式を目的に応じて変形することに課題がある。(55.3%、+2.8)
- ◆ 6(2) 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。(47.2%、+11.3)
- ◆ 6(3) 統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。(44.5%、+2.7)

(イ) 図形

- ◆ 9(1) 筋道を立てて考え、証明することに課題がある。(31.8%、+6.0)
- ◆ 9(2) 事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見出すことに課題がある。(28.5%、+1.8)

(ウ) 関数

- ◇ 8(1) 二つのグラフにおける y 軸との交点について、事象に即して解釈することはできている。(84.1%、+0.7)
- ◆ 8(2) 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。(21.3%、+4.2)

(エ) データの活用

- ◆ 7(2) 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。(26.9%、+1.0)
- ◆ 7(3) 複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することに課題がある。(45.8%、-2.7)

エ 授業改善に向けて

(ア) 数と計算

a 「数量及び数量の関係を文字を用いた式で表す活動の重視」

連続する二つの偶数を文字を用いて表現できるように指導することが大切である。その際、例えば、連続する二つの偶数の場合、偶数とは2で割ったときに余りが0になる整数であることや、連続する二つの偶数の差が2であることなど、数量のもつ特徴を確認することが大切である。その上で、その特徴を $2n$ 、 $2n + 2$ などと文字式に表し、さらに n に具体的な数を当てはめて、正しく表現できていることを確認する活動を取り入れることが考えられる。

b 「事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明する活動の充実」

事柄が一般的に成り立つ理由を、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにして説明する活動を取り入れることが大切である。例えば、「□に入る整数の和は、○に入れた整数の和の2倍になる」ということを説明するために、計算結果を表した式を「 $2 \times (\text{○に入れた整数の和})$ 」の形にできればよいという見通しをもって、式を変形できるようにすることが大切である。

(イ) 図形

「筋道を立てて考え、証明する活動の充実」

事柄が成り立つことを証明できるようにするためには、既習の定理等を用いて証明していく方針を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大切である。

(ウ) 関数

「事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実」

具体的な場面における問題を表、式、グラフを用いて解決できるようにするために、問題解決の構想を立てたり、問題解決の過程や結果を振り返ったりする活動を取り入れることが大切である。その際、表、式、グラフを活用し数学的な表現を用いて問題解決の方法を説明できるように指導することが大切である。

(エ) データの活用

a 「データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を説明する活動の重視」

データの分布の傾向を読み取って判断し、その理由を数学的な表現を用いて的確に説明できるようにすることが大切である。その際、判断の理由を箱ひげ図の箱の位置や四分位数などを根拠として説明できるようにすることが大切である。

b 「四分位範囲を用いて分布の特徴を捉える活動の充実」

複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取る活動を通して、四分位範囲の必要性和意味を理解できるように指導することが大切である。その際、四分位範囲は、データの散らばりの度合いを表す指標で、中央値のまわりにあるおよそ半分のデータがどのあたりに分布しているのかがわかる値となっており、第3四分位数と第1四分位数の差で求められることを確認することが大切である。

3 学習や生活習慣などに関する児童生徒質問調査

「児童生徒質問調査」の概要は以下に示すとおりであるが、経年変化を見るために、小数点以下第一位までの数値で示している。特に記載ある場合を除き、数値は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合である。なお、令和2年度の調査は全て実施していないので、欄を設けていない。

(1) 学習に対する興味・関心や授業の理解度等【国語】 ※H30 は実施していない。

全国と比較すると、これらの質問項目では、小学校、中学校ともに、全ての質問項目で全国を上回った。平成27年度と比較すると、「国語の授業の内容がよく分かる」について、小学校では4.9ポイント、中学校では10.1ポイント高くなった。それ以外の項目についても、全て平成27年度よりも高くなった。

今後も、「すべての子どもが分かる授業」を目指して主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組み、国語を学ぶ意義や言葉を扱うことのよさを実感しながらより主体的に学べるよう、指導の工夫に取り組むことが重要である。

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	全国R 6
国語の授業の内容がよく分かる。	83.2%	83.5%	84.5%	—	87.2%	86.9%	87.7%	88.6%	88.1%	86.3%
国語の勉強は好き。	63.2%	61.6%	64.1%	—	66.6%	60.6%	62.5%	64.2%	64.7%	62.0%
国語の勉強は大切だと思う。	92.5%	91.8%	91.6%	—	94.4%	94.8%	94.8%	95.3%	95.4%	94.5%
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	88.4%	89.1%	88.0%	—	92.0%	93.3%	92.4%	93.2%	93.9%	93.2%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	全国R 6
国語の授業の内容がよく分かる。	74.2%	73.5%	79.1%	—	79.8%	83.0%	83.8%	83.1%	84.3%	82.7%
国語の勉強は好き。	62.5%	60.8%	66.1%	—	64.1%	63.9%	65.1%	65.8%	68.6%	64.3%
国語の勉強は大切だと思う。	88.9%	88.0%	89.2%	—	91.7%	93.2%	93.6%	92.8%	94.6%	93.9%
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	82.6%	82.7%	83.6%	—	89.2%	92.0%	91.4%	90.1%	91.8%	90.6%

(2) 学習に対する興味・関心や授業の理解度等【算数・数学】

全国と比較すると、小学校では、全ての質問項目で全国を上回った。平成27年度と比較すると、「授業の内容がよく分かる」について、小学校では3.4ポイント、中学校では5.5ポイント高くなった。

今後も、きめ細やかな指導の充実を図りながら、中学校では、数学の学習をすることの意味や意義を感じられるよう、授業改善に取り組むことが重要である。

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	全国 R 6
算数の授業の内容がよく分かる。	78.8%	79.3%	78.6%	84.0%	83.4%	85.5%	82.0%	81.6%	82.2%	82.1%
算数の勉強は好き。	63.8%	66.1%	65.5%	65.3%	69.2%	67.8%	64.0%	61.3%	63.0%	61.0%
算数の勉強は大切だと思う。	93.2%	92.7%	91.7%	93.0%	94.6%	95.1%	95.6%	94.9%	95.0%	94.6%
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	90.0%	90.0%	88.3%	90.6%	93.1%	93.5%	93.9%	93.5%	94.4%	94.1%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	全国 R 6
数学の授業の内容がよく分かる。	70.6%	69.8%	72.5%	74.2%	74.5%	78.5%	78.7%	72.9%	76.1%	75.7%
数学の勉強は好き。	55.1%	56.4%	59.2%	56.5%	59.4%	62.2%	59.1%	56.7%	58.5%	57.2%
数学の勉強は大切だと思う。	79.2%	78.0%	80.2%	82.5%	82.4%	85.0%	86.3%	84.3%	86.9%	87.2%
数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	67.3%	67.3%	68.6%	68.9%	73.0%	75.5%	76.6%	75.0%	78.3%	78.5%

(3) 規範意識、自己有用感等

平成27年度と比較すると、「自分にはよいところがあると思う」について、小学校では7.9ポイント、中学校では15.6ポイント高くなった。「将来の夢を持っている」については、やや下回っている。

「キャリア在り方生き方教育」を通して、子どもたちが自分の価値を認識しながら、他者の価値も尊重する意識を醸成していくことが大切である。また、学級や学校生活において自分自身を見つめ、将来の生き方について考えられる活動を継続することが必要である。

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	全国R 6
自分にはよいところがあると思う。	77.4%	79.0%	79.9%	87.3%	83.1%	79.1%	81.7%	84.4%	85.3%	84.1%
将来の夢を持っている。	84.6%	83.1%	83.9%	84.6%	81.2%	77.3%	77.7%	79.9%	80.3%	82.4%
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	95.7%	95.9%	95.7%	96.9%	97.2%	96.9%	96.9%	97.2%	97.5%	96.7%
人の役に立つ人間になりたいと思う。	93.7%	93.2%	92.6%	95.4%	95.4%	96.0%	95.7%	96.3%	96.9%	95.9%
友達関係に満足している。	—	—	—	—	—	—	—	91.7%	92.4%	91.1%
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある。	—	—	—	—	—	—	—	91.6%	91.5%	91.7%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	全国R 6
自分にはよいところがあると思う。	67.6%	69.1%	70.4%	80.0%	75.0%	76.4%	79.3%	79.8%	83.2%	83.3%
将来の夢を持っている。	69.6%	67.8%	68.4%	70.3%	67.6%	65.2%	64.0%	66.1%	66.3%	66.3%
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	91.7%	91.6%	91.5%	94.1%	93.9%	95.9%	96.0%	95.5%	95.5%	95.7%
人の役に立つ人間になりたいと思う。	91.8%	90.9%	90.9%	93.7%	93.4%	94.6%	93.9%	94.6%	95.6%	95.2%
友達関係に満足している。	—	—	—	—	—	—	—	89.4%	90.8%	90.1%
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある。	—	—	—	—	—	—	—	87.4%	90.8%	89.8%

(4) 学習習慣等

全国と比較すると、「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1 日当たり 1 時間以上勉強をする。」について、小学校では 5.7 ポイント、中学校では、8.4 ポイント高くなっている。

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	全国 R 6
家で、自分で計画を立てて勉強している。	60.6%	59.5%	62.6%	66.4%	69.2%	72.4%	72.5%	71.3%	—	—
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1 日当たり 1 時間以上勉強をする。	58.6%	59.0%	61.2%	63.2%	63.6%	61.6%	62.7%	58.9%	60.3%	54.6%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	全国 R 6
家で、自分で計画を立てて勉強している。	45.6%	46.5%	50.3%	49.1%	46.3%	63.4%	57.4%	55.6%	—	—
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1 日当たり 1 時間以上勉強をする。	70.2%	68.9%	71.1%	72.5%	72.6%	80.5%	73.2%	72.1%	72.7%	64.3%

(5) 基本的生活習慣等

基本的生活習慣のこれらの質問項目について全国と比較すると、小学校、中学校ともに全ての質問項目で下回っている。

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	全国 R 6
朝食を毎日食べている。	94.9%	95.0%	94.5%	93.8%	94.5%	94.0%	94.0%	93.3%	93.2%	93.7%
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	77.6%	79.1%	78.6%	76.5%	80.4%	81.2%	80.7%	79.5%	80.0%	82.9%
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	89.4%	89.8%	89.5%	87.7%	90.9%	90.1%	89.2%	89.9%	91.3%	91.6%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	全国 R 6
朝食を毎日食べている。	91.1%	90.4%	90.8%	88.7%	89.8%	90.8%	89.6%	89.6%	89.2%	91.2%
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	71.8%	72.6%	73.4%	71.6%	74.3%	76.3%	76.3%	71.6%	74.0%	80.7%
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	90.2%	90.6%	91.2%	88.6%	90.1%	90.6%	90.1%	89.3%	90.8%	92.5%

(6) 主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導改善に関する取組状況等、総合的な学習の時間、特別活動

全ての質問項目において、全国と比較すると上回っている。全国と比較すると、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う。」について、小学校では4.0ポイント、中学校では6.2ポイント高くなった。今後も、主体的に学習に取り組んだり、自分の考えを広めたり深めたりできるように、授業改善をしていくことが重要である。

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	全国R 6
5年生までに受けた授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思う。	—	—	—	80.7%	80.4%	82.1%	82.1%	82.8%	86.2%	81.9%
5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う。	—	68.4%	70.9%	66.6%	68.6%	69.0%	68.9%	68.4%	70.1%	67.6%
※学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると思う。	69.6%	69.6%	70.9%	80.5%	77.8%	82.5%	83.2%	83.9%	87.6%	86.3%
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う。	73.9%	72.3%	78.3%	—	74.2%	80.7%	81.1%	82.2%	85.3%	81.3%
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う。	—	—	—	—	74.5%	75.7%	78.2%	80.2%	86.2%	82.5%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	全国R 6
1、2年生までに受けた授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思う。	—	—	—	74.7%	77.3%	84.6%	81.9%	82.2%	84.4%	80.3%
1、2年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う。	—	62.0%	64.8%	58.5%	62.9%	68.7%	71.7%	73.2%	74.4%	64.8%
※学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると思う。	64.3%	66.9%	68.5%	76.7%	73.5%	79.4%	78.9%	80.8%	87.2%	86.1%
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う。	64.5%	63.8%	71.6%	—	68.5%	79.3%	81.5%	81.7%	88.4%	82.2%
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う。	—	—	—	—	65.1%	71.7%	73.4%	75.7%	84.3%	80.6%

※R 5までは、「学級の生徒の間に話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。」

(7) ICTを活用した学習状況

全ての質問項目において、全国と比較すると上回っている。全国と比較すると、「5年生まで（1、2年生の時）に受けた授業で、PC・タブレットなどのICTを週3回以上使用している。」について、小学校では5ポイント、中学校では14.5ポイント高くなった。「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができると思う。」については、小学校では5.1ポイント、中学校では5.6ポイント高くなった。

【小学校】

質問項目	R 4	R 5	R 6	全国R 6
5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICTを週3回以上使用している。	65.7%	67.4%	64.5%	59.5%
学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。	94.6%	95.2%	—	—
5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまるか。				
自分のペースで理解しながら学習を進めることができると思う。	—	—	89.0%	85.5%
自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができると思う。	—	—	84.3%	79.2%
友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると思う。	—	—	89.1%	86.1%
友達と協力しながら学習を進めることができると思う。	—	—	89.9%	87.1%

【中学校】

質問項目	R 4	R 5	R 6	全国R 6
1、2年生の時に受けた授業で、PC・タブレットなどのICTを週3回以上使用している。	64.4%	73.9%	78.9%	64.4%
学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。	92.7%	94.1%	—	—
1、2年生の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまるか。				
自分のペースで理解しながら学習を進めることができると思う。	—	—	85.0%	80.2%
自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができると思う。	—	—	83.3%	77.7%
友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると思う。	—	—	89.7%	86.2%
友達と協力しながら学習を進めることができると思う。	—	—	89.7%	85.2%

(8) 地域や社会に関わる活動の実施状況等

令和5年度と比較すると、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」について、小学校では5.4ポイント、中学校では15.7ポイント高くなった。

平成28年度から全市で取り組んできた「キャリア在り方生き方教育」を土台とし、市制100周年に関連した「学校e～ね★サミット」の中で、子どもたちが、自分が住む地域との関わりを自分事として捉えて主体的に学習できるように、指導の充実を図ることが大切である。

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	全国R 6
今住んでいる地域の行事に参加している。	53.1%	55.3%	47.4%	52.5%	57.0%	45.0%	41.1%	47.5%	—	—
※地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。	—	—	—	—	—	—	—	80.0%	85.4%	83.5%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	全国R 6
今住んでいる地域の行事に参加している。	34.3%	35.0%	31.9%	38.6%	39.9%	31.2%	27.1%	27.7%	—	—
※地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。	—	—	—	—	—	—	—	59.5%	75.2%	76.1%

※R 4までは、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。」